

アキアカネ

Sympetrum frequens

トンボ科



アキアカネ

名前の由来

「秋アカネ」で秋に出るアカネトンボの意。「アカネ」は茜色（茜草の根で染めた赤色）に由来し、成熟すると全身が赤くなることから、いわゆる赤トンボ全般を「アカネ」と呼んでいる。赤トンボという種類は存在しない。漢字名：秋茜

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原) 鳥類
ワシタカ
樹林

形態的特徴

体長35～40mm。翅は無色透明でオスは成熟すると腹部が赤くなる。メスは腹部が黄土色である。

類似種と見分け方：ナツアカネ、ヒメリスアカネ、マユタ

生息環境・分布

平地から低山地の挺水植物が繁茂する池沼、水田、溝にヤゴが生息し、夏に羽化した後は山地で過ごし、秋に平地に戻って産卵する。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカやハエなどの昆虫類やクモ類を捕食する。

テアカネ。

胸部の模様、交尾器の形などで区別できる。

分布：日本特産種。国内分布は、九州以北。北海道内では全域に分布。

十勝地方では、平地から山地の池沼に普通に生息している。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫はアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、チゴハサブサなど小型猛禽類やタンチョウなどの鳥類に捕食される。

繁殖生態・寿命

卵で越冬し、成虫は6月上旬から10月下旬に見られる。羽化後は山地で過ごした後に平地や低山地の池で産卵する。

産卵は連結して打水して行なわれる。

寿命：幼虫期間約2～6ヶ月、成虫期間約3ヶ月。

興味深い話

■十勝地方で最も普通に見られる赤トンボであり、初夏に羽化した後に冷涼な山地で過ごし、秋になると再び平地に戻って産卵するという生態をもつ。山地に移動するときに、数万という単位で移動することがある。移動距離は数kmから時には数十kmにも及ぶという。

うたれる」といい、東海地方では「赤トンボをとると目が赤くなる」「腹が痛くなる」などの言い伝えがあるという。

■東北地方ではカミナリトンボといって、とると「雷様に

■成虫は解熱にきくとか強壮剤として民間薬に利用されているとのことである。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するときに水草に登って羽化する。池や沼

の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993

「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002

「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」 石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988

「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」 枝重夫 講談社 1982

「日本産トンボ大図鑑」 浜田康・井上清 講談社 1985

「トンボのすべて」 井上清・谷幸三 トンボ出版 1999

「カラー日本のトンボ」 石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973

「近畿のトンボ」 近畿のトンボ編集委員会 関西トンボ談話会 1984

「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977

「アカトンボの教材化(環境教育)」のページ 青木典司, 1994

<http://www.odonata.jp/akatombo/>